

外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2014/08/01

各国の景況感を確認しながら

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円	➡	<p>豪州の金融政策に注目</p> <p>予想レンジ: 93.800 ~ 98.200 円</p>	2-3
NZドル/円	➡	<p>各種経済イベントを確認しながら</p> <p>予想レンジ: 82.800 ~ 90.000 円</p>	4-5
ランド/円	➡	<p>低成長と高インフレの中で動きづらい</p> <p>予想レンジ: 9.200 ~ 10.000 円</p>	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

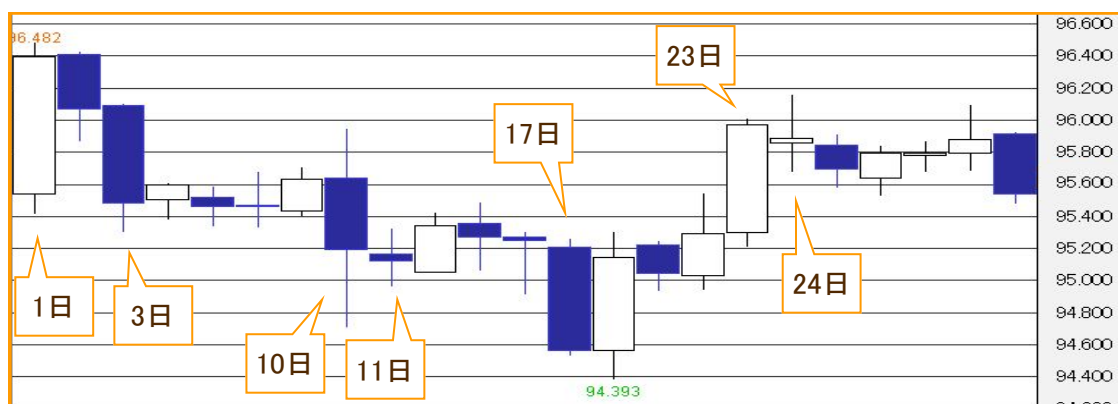
Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 7月の推移

AUD/JPY

7月の豪ドル/円相場は94.393～96.482円のレンジで推移。月間の終値ベースでは横ばいとなった。

月初は豪準備銀行(RBA)理事会の声明文に反応して値を上げるも、今年4月に付けた年初来高値(96.497円)目前で失速。その後、RBA要人からの豪ドル高牽制発言が出たのを始め、ポルトガルの金融不安や、ウクライナやイスラエル情勢の緊迫化が重石となって下げるも一時的となり、豪4-6月期消費者物価を受けてRBAの次の一手は利上げとの見方が広がると切り返すなど、方向感が定まらなかった。



四本値

OPEN	95.547
HIGH	96.482
LOW	94.393
CLOSE	95.542

1日	RBAは金融政策の据え置きを発表した。市場では足元の豪州の貿易収支や雇用統計が冴えなかったことからハト派的な声明文が予想されていたが、公表された内容は前月とあまり変わらないものであった。ハト派色が薄かったことから、直後の市場は豪ドル買いで反応した。
3日	RBAのステーブンス総裁が「金融政策は非常に緩和的だが依然として金利について行動の余地」など追加金融緩和の可能性に言及した事や、豪5月小売売上高が前月比-0.5%と予想(±0.0%)より弱い結果となったことから、豪ドル/円は約60銭急落。好調な米6月雇用統計を受けて豪ドル/米ドル相場では豪ドル売り・米ドル買いが優勢となると、95.313円まで一段安となった。
10日	豪6月雇用統計は、雇用者数変化が1.59万人増と予想(1.20万人増)を上回ったことから豪ドル/円は95.949円まで上昇した。しかし、失業率が6.0%(予想:5.9%)となった事や、雇用者数の内訳を見ると正規雇用者が減少していた事が嫌気されて急反落。更に、中国6月貿易収支が315.6億ドルと予想(369.5億ドル)より弱い結果となった事や、ポルトガルの銀行を巡る信用不安を受けてリスク回避ムードが広がった事も重なり、94.718円まで大きく値を下げた。
11日	RBAのステーブンス総裁が「米連邦準備制度理事会(FRB)の引き締め観測を踏まえると豪ドルは高過ぎる」との見方を示すと、豪ドル/円は94.987円までやや売られた。
17日	「マレーシア航空機がウクライナ東部上空で撃墜された」との報道や、イスラエル首相府がガザ地区への地上侵攻を開始した事が明らかとなり、リスク回避の動きが強まるとNYダウ平均が17000ドルの大台を割り込んだ。これを嫌気して豪ドル/円は94.537円まで下落した。
23日	豪4-6月期消費者物価は、前年比は市場予想通り+3.0%となるも、RBAが重視する基調インフレ率が前年比+2.8%と予想(2.7%)を上回った。これを受け、市場ではRBAの次の一手は利上げとの見方が広がり、豪ドル買いが優勢となった。
24日	中国7月HSBC/マークイット製造業PMI・速報が52.0と予想(51.0)を上回り、2013年1月(52.3)以来の高水準となった事が好感され、豪ドル/円は一時96.159円まで値を上げた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

AUD/JPY

日経平均

OPEN	15179.64
HIGH	15759.66
LOW	15101.49
CLOSE	15620.77

NYダウ平均

OPEN	16828.53
HIGH	17151.56
LOW	16563.30
CLOSE	16563.30

上海総合指数

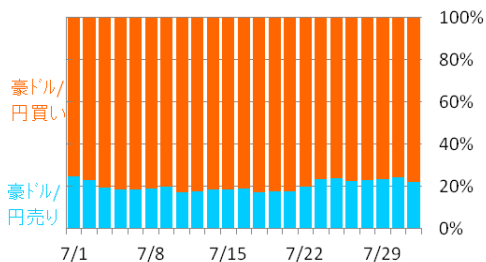
OPEN	2051.225
HIGH	2202.125
LOW	2033.004
CLOSE	2201.562

豪10年債利回

OPEN	3.5520%
HIGH	3.6080%
LOW	3.3260%
CLOSE	3.5060%

7月のポジション動向

豪ドル/円ポジション指数



今月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・米7月雇用統計(1日)
- ・RBAキャシュターゲット(5日)
- ・豪7月雇用統計(7日)
- ・RBA四半期金融政策報告(8日)
- ・RBA議事録(19日)
- ・米FOMC議事録(20日)
- ・ウクライナ情勢、イスラエル情勢
- ・主要国株価
- ・国際商品価格

今月の見通し

今月、豪州でRBA四半期金融政策報告が予定されている。前月発表された4-6月期消費者物価がRBAのインフレーターターゲット(年2~3%)上限に迫った事から、今回の報告で5月に示したインフレ見通し(目標範囲2-3%の中間)が上方修正されれば、RBAの利上げ再開の思惑に結びつきやすく、豪ドル買いの材料となる可能性がある。また、6月に発表された豪4-6月期経済成長率(GDP)は前年比+3.5%と5月時点での2014年の見通し(+2.75%)を上回る伸びを示している事から、GDP見直しに変更があれば材料視されるだろう。そのほか、足元の豪ドル相場に対する見解を確認する上で5日のRBAキャシュターゲットや、RBAが懸念している雇用状況を確認する上で7月雇用統計にも注目したい。

豪国外では、前月に続きドルが動き出すかが焦点である。米7月雇用統計やFOMC議事録などを通し、米経済イベントを受けてドルが動き出すか注目したい。仮に米利上げ前倒し観測が高まって米長期金利が上昇するようだと、豪ドル/米ドルの下げ主導で豪ドル/円に下押し圧力が掛かる事もあり得る。その他、先月末に三角もち合いを上抜けたドル/円相場の動向にも留意したい。(川畑)

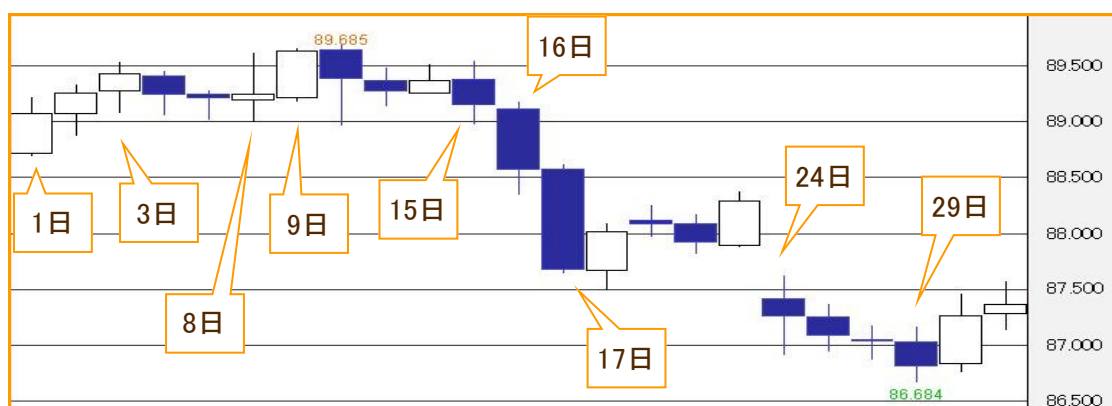
(予想レンジ: 93.800~98.200円)

NZドル/円 7月の推移

NZD / JPY

7月のNZドル/円相場は86.684～89.685円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.5%の下落(NZドル安・円高)となった。

格付け会社フィッチがNZの格付け見通しを引き上げた事から89.685円まで上昇するも、4月に付けた年初来高値(89.924円)を超えられずに伸び悩み。その後はNZ準備銀行(RBNZ)要人からNZドル高牽制発言が出たのを始め、NZ乳業大手フォンテラが実施した乳製品入札が不調であった事や、ウクライナやパレスチナ情勢が緊迫化した事でリスク回避の流れとなった事や、RBNZが利上げ休止を示唆した事などから、それまでの反動が出る形でNZドルが売られると、29日に約2カ月ぶりに86.684円まで下落した。



四本値

OPEN	88.721
HIGH	89.685
LOW	86.684
CLOSE	87.368

1日	NYダウ平均が17000ドルの大台目前まで上昇した事を受けてNZドル/円は89.223円まで値を上げるも、NZ乳製品大手フォンテラの乳製品入札が前回から下落した事が伝わると伸び悩んだ。
3日	米雇用統計の好結果を受け、NYダウ平均が史上初めて17000ドルの大台に乗せると、NZドル/円は上昇。一時89.541円まで値を上げた。
8日	格付け会社フィッチがNZの格付け見通しを従来の「安定的」から「ポジティブ」に変更。これを好感してNZドル/円は89.617円までやや値を上げた。
9日	RBNZのマクダーモット総裁補が「今後、インフレ圧力が高まる見通し」などと発言するも、NZドル/円相場の反応は薄かった。
15日	NZ乳業大手フォンテラの入札が前回から下落した事を嫌気してNZドル売りが優勢となり、NZドル/円が88.993円まで下落した。
16日	NZ4-6月期消費者物価は前期比+0.3%、前年比+1.6%と予想(+0.4%、+1.8%)より低い伸びとなった。これを受けてNZドル/円は88.478円まで一段安となった。
17日	「マレーシア航空機がウクライナ東部上空で撃墜された」との報道や、イスラエル首相府がイスラエルがガザ地区への地上侵攻を開始した事を明らかにした事からリスク回避の動きが強まり、NYダウ平均が17000ドルの大台を割り込んだ。これを嫌気してNZドル/円は87.654円まで下落した。
24日	RBNZは政策金利を0.25%引き上げ年3.50%とした。その際の声明文で「現在のNZドル高は維持できないと表明。今後NZドルが大幅に下落する可能性がある」とした他、「今年3月以降の利上げの効果を見極める」と利上げを一旦停止する意向を示した。これらを嫌気してNZドル/円は前日終値(88.300円)から90銭近く安く寄り付くと、その後86.920円まで一段安となった。
29日	NZ乳業大手フォンテラが2014年の乳価支払い見通しを7NZドルから6NZドルに引き下げると発表。これを嫌気してNZドル/円は売り優勢となり、その後86.684円の安値を付けた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD/JPY

日 経 平 均

OPEN	15179.64
HIGH	15759.66
LOW	15101.49
CLOSE	15620.77

NYダウ平均

OPEN	16828.53
HIGH	17151.56
LOW	16563.30
CLOSE	16563.30

上海総合指数

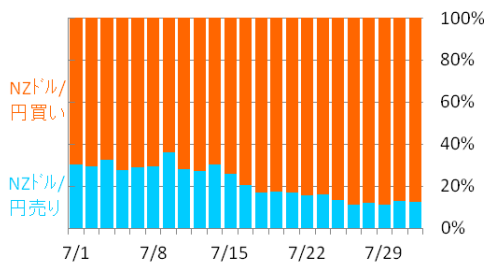
OPEN	2051.225
HIGH	2202.125
LOW	2033.004
CLOSE	2201.562

NZ10年債利回

OPEN	4.4070%
HIGH	4.5260%
LOW	4.1590%
CLOSE	4.2500%

7月のポジション動向

NZドル/円ポジション指数



今月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・米7月雇用統計(1日)
- ・NZ乳業大手フォンテラ入札(5日、19日)
- ・NZ4-6月期失業率(6日)
- ・NZ4-6月期小売売上高(14日)
- ・米FOMC議事録(20日)
- ・ウクライナ情勢、イスラエル情勢
- ・国際商品価格
- ・主要国株価

今月の見通し

8月について、RBNZの金融政策発表が予定されていないことから、発表される国内の各種経済指標を確認しながら利上げ再開時期を読み解く事となりそうだ。また、今月は乳業大手フォンテラによる乳製品入札が5日と19日に予定されている。先月、RBNZが利上げ休止の理由の一つとして、NZの重要輸出品である乳製品の価格が下落傾向にある事を挙げていることから、入札結果は重要である。

今月はNZのみならず主要国でも注目を集めそうな経済イベントはやや少なく、その中で米7月雇用統計(1日)や米FOMC議事録(20日)などの米経済イベントを受けてドルが動き出すか注目したい。仮に米利上げ前倒し観測が高まって米長期金利が上昇するようだと、NZドル/米ドルの下げ主導でNZドル/円に下押し圧力が掛かる事もあり得る。

その他、その他、先月末に三角もち合いを上抜けたドル/円相場の動向にも留意したい。(川畑)

(予想レンジ: 82.800~90.000円)

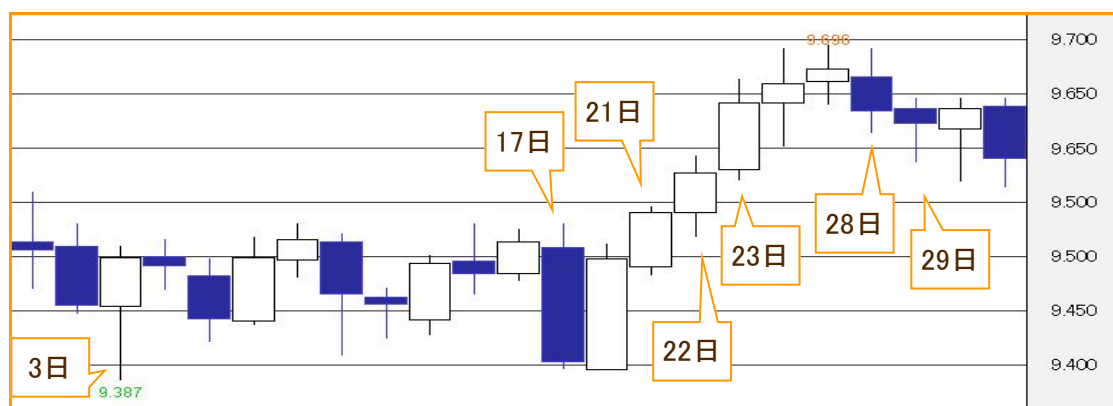
ランド/円 7月の推移

ZAR/JPY

7月のランド/円相場は9.387～9.696円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.8%の上昇(ランド高・円安)となった。

前半は南アフリカの金属労組がストライキに入った事がランド相場の上値を重くし、ランド/円は9.40円台を中心とした安値もみ合いが続いた。また、ウクライナ情勢やパレスチナ情勢の緊迫化も重石となった。

ただ、その後はストライキ終息に向けた動きが出た(のちに終結した)事や、南ア準備銀行(SARB)がインフレ抑制のために実施した利上げが徐々に評価された事から、レンジを上抜けると9.696円までやや値を上げた。ウクライナ情勢やイスラエル情勢が過度に緊迫化しなかった事も、追い風となった模様である。



四本値

OPEN	9.514
HIGH	9.696
LOW	9.387
CLOSE	9.592

3日	米雇用統計が強めの結果になるのではとの思惑から発表前にドル買いが強まり、ドル/ランドの上昇(＝ランド安)に連れてランド/円は下落。予想を上回る好結果が伝えられると9.387円の安値を付けるも、その後はドル/円が上昇した事や、NYダウ平均が史上最高値を更新して17000ドル台に乗せた事を受けて9.510円まで反発した。
17日	市場では金利据え置き予想がやや優勢となる中、SARBが政策金利を0.25%引き上げて年5.75%とした。声明で利上げの理由について、ランド相場の軟調推移を始め、足元のインフレ率が目標を上回っている事や、ストライキの影響による賃金上昇が先行きの物価を押し上げる懸念がある事などを挙げた。予想外の利上げや、今後の追加利上げの可能性が温存された事から、ランド/円は9.531円まで買われた。しかし、その後は「マレーシア航空機がウクライナ東部上空で撃墜された」との報道や、イスラエル首相府がイスラエルがガザ地区への地上侵攻を開始した事を明らかにした事からリスク回避の動きが強まり、NYダウ平均が17000ドルの大台を割り込んだ事が嫌気され、9.398円まで反落した。
21日	南アフリカの6金属労働組合がストの終結を目指し、経営者側に対し賃上げ要求幅引き下げを提示した。これを好感してランド/円はじり高で推移した。
22日	米6月消費者物価指数を受けてドル売りが優勢となり、ドル/ランド相場の下げ(＝ドル安・ランド高)に連れてランド/円は小幅に値を上げた。
23日	欧州株の堅調推移や、安く始まったNYダウ平均の持ち直しを手掛かりに、ランド/円は堅調に推移した。南ア6月消費者物価指数が前年比+6.6%と予想(+6.7%)を下回るも、反応は限定的であった。
28日	南ア最大の労組である全国金属労働者組合(NUMSA)が経営者側の賃上げの提案を受け入れたと発表し、約4週間続いたストライキが終結。ただ、ランド相場の反応は薄かった。
29日	南ア4-6月期失業率が25.5%と予想(25.4%)より弱い結果となったが、ランド/円相場の反応は薄かった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

日 経 平 均

OPEN	15179.64
HIGH	15759.66
LOW	15101.49
CLOSE	15620.77

NYダウ平均

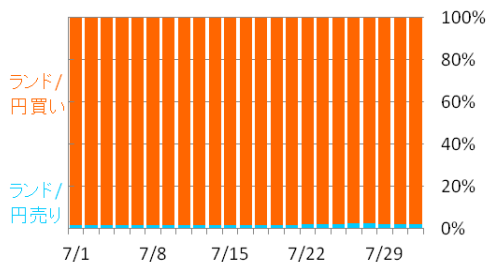
OPEN	16828.53
HIGH	17151.56
LOW	16563.30
CLOSE	16563.30

N Y 金

OPEN	1327.50
HIGH	1346.80
LOW	1280.60
CLOSE	1281.30

7月のポジション動向

ランド/円ポジション指数



今月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・米7月雇用統計(1日)
- ・南ア7月消費者物価指数(20日)
- ・米FOMC議事録(20日)
- ・南ア4-6月期GDP(26日)
- ・南ア国内のストライキ
- ・ウクライナ情勢、イスラエル情勢
- ・主要国株価
- ・国際商品価格

今月の見通し

先月、南アでは金属労組のストライキが終結し、SARBが利上げを実施したとはいえ、低成長と高インフレが同居する中ではランド/円は8月も方向感が出にくいと見る。まず低成長について、先月SARBが金融政策発表の際、南アの経済成長見通しを14年が1.7%、15年は2.9%と5月時点(2.1%、3.1%)から引き下げており、南ア国内経済の回復には時間がかかりそうだ。26日の4-6月期国内総生産(GDP)にて、どの程度国内経済が影響を受けたか注目したい。次に高インフレについて、3月以降はSARBのインフレ目標(年3~6%)を上回っている上、直近2か月は6.6%と伸びが加速している。7月の利上げがインフレ抑制に力不足との見方につながれば、SARBの追加利上げ観測が浮上する事もあり得る。20日の7月消費者物価指数にも関心が集まりそうだ。当面、SARBは低成長と高インフレの中での金融政策運営を迫られる公算が大きく、仮に利上げ観測が浮上しても、国内経済が減速する中とあっては、国内経済に配慮して0.25%の小幅なものに留まりそうだ。よって、利上げ観測の浮上が即ランド買いの材料とはならない事も考えられる。

その他、南ア国外では、米7月雇用統計や米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録など米経済イベントを受けてドルが動き出すか注目したい。(川畑)

(予想レンジ: 9.200~10.000円)